

中日の親族呼称について

劉 柏 林

要 旨

呼称の問題は、人類の社会的属性や人間関係の価値観を反映し、その社会の文化、政治的背景、伝統、習慣と密接な関わりを持っている。中国人の呼称は、日本人のどのような違いがあるか、親族を紹介する際や中国語の小説を読む時に呼称についての正しい理解が必要になる。

宗法社会の特徴は血縁のきずなを重視することにある。親子、夫婦、兄弟及び親戚関係の構成によって、家族を中心に、血統の遠近によって親疎を区別する人間関係を作る。中国人の一族の構成員においては、縦と横の関係がはっきり区別されており、それぞれの立場・身分に対応した呼称語がある。

「イトコ」という呼称語は中国人から見ると漠然とした感じがする。中国人に親戚の「イトコ」を紹介する時に父方のか、母方のかをはっきり説明しないとその関係について相手に聞かれる。できるだけ「堂」（父方）か「表」（母方）かをはっきり説明した方がいい。

中国では何千年にわたる封建社会の歴史があったため、親戚の親疎関係や長幼の順序「輩分」がはっきり区別される。

中国人は、家族のことについて話す際、よく「尊称」「謙称」を用いる。相手の家族に対する尊敬の気持ちを表わすために「尊称」として「令」を用い「令×」という。自分の家族に言及して目上の人を紹介する場合には、「謙称」とするために「家」（jia）を用いて「家×」と言う。

日本人の家庭では、妻が夫に第二人称代名詞「あなた」をそのまま用

い、子供がいれば、子供を介して「お父さん」と「お母さん」と呼んでいる。このような呼び方が、日本ではやはり圧倒的に多い。しかし、中国では、こういう現象は大変少ない。中国人は、「輩分」についての意識が強く、「爸爸」というにしても、誰の父か、人称代名詞ではっきりと限定することが重要である。中国では、日本人の家庭で普段使われている呼称語抜ききの「おい」「ねえ」「ちょっと」或いは「おまえ」「あなた」「きみ」というような呼び方は、夫婦喧嘩の時以外には使わない。

親族呼称は、民族性や時代性が強く、社会の変化に伴って呼称語も変わっていくものである。

キーワード： 中日呼称語の文化背景、「宗親」と「輩分」、家族呼称の対照

- 0, はじめに
- 1, 「宗親」の血縁を重視する中国人
- 2, 中国語の呼称に現れる「輩分」の重み
- 3, 尊称と謙称
- 4, 夫婦関係の呼称
- 5, 終わりに

0, はじめに

親族呼称の問題は、人類の社会的属性や人間関係の価値観を反映し、その社会の文化、政治的背景、伝統、習慣と密接な関わりを持っている。親族呼称の問題はやさしいようで、実に複雑な要素が多い。文化人類学者や言語学者などに注目され、言語文化学の研究課題の一つでもある。人間の社会におけるコミュニケーション活動においては、面談にしろ、電話にしろ、書簡にしろ、人を呼称することは欠かせない。呼称の問題は、文化的背景と深い関わりがあるため、中日両国の文化の違いによって、親族関係の表現には対応語を考えることができるものもあるし、できないものもある。

例えば、中国語と日本語の「哥哥/弟弟」(兄/弟)、「姐姐/妹妹」(姉/妹)は性別と上下の関係をはっきり区別して使用される。これは中日の呼称語の共通した点の一つだと言えよう。英語とドイツ語などの言語ではbrother/sister, Bruder/Schwesterというように上下関係がなく、性別だけを区別して、使用される。しかし、日本語の「イトコ」は「父または

母の兄弟・姉妹の子。」(広辞苑)と説明されるが、こういう呼称語は中国人にとって、かなり分かりにくい。分かりにくい理由の一つは、父方のか、母方のかという疑問である。二つ目は、話題の「イトコ」は、男性なのか、女性なのかということである。三つ目は、話し手より年上か、年下か、お互いの立場はどういうことになるだろう。「おじいさん」「おばあさん」「おじさん」「おばさん」もそうである。「宗親」(父方)を指すのか、「外親」(母方)を指すのかがはっきり分らないという思いがする。

逆に中国語を勉強する日本人にとっては、中国語の呼称語が多く、あまりに複雑なので、どのように使えば良いか戸惑うことが多いだろうと思われる。異国の呼称法を理解することは中国人にとっても、日本人にとっても、やさしいことではない。とりわけ実際に接する相手およびその人に関連する親族をどう呼んだらいいのかは一番頭の痛いことの一つであるとも言えよう。

初対面の中国人にどのような呼称語を使えばよいか、中国人の呼称は、日本人の呼称とどういう違いがあるかということだけではなく、親族を紹介する際や中国語の小説を読む時にも呼称の持つ意味についての正しい理解が必要になる。

本稿では、使用頻度のわりあい高い親族呼称について、中国語と日本語を対照しながら分析を行う。特に自分を中心とする目上、目下の上下関係が基本となる親族間の呼称の規則を見、中日両国のそれぞれの文化を背景にして生まれる両国語間の呼称語の異同について述べてみたい。

1、「宗親」の血縁を重視する中国人

中国では長い間「宗法」社会が続いてきた。宗法社会の特徴は一族の血縁のきずなを重視することにある。すなわち親子、夫婦、兄弟及び親戚関係の構成の中で、家族を中心に、血統の近遠によって親疎を区別する人間関係を作る。それに加えて上下の別を明らかにしながら、呼称語が厳格に使い分けられている。日本語は、英語と同じく父方であれ、母方であれ、親の兄弟姉妹を男性は「オジサン」(uncle)、女性は「オバサン」(aunt)という。さらに、その配偶者を「オジサン」「オバサン」というのが一般的のようだから、もし「オジサン」と「オバサン」を中国語に直すと直接的には「伯父、叔父、姑夫、舅舅、姨父…」と「伯母(大媽)、嬸母、姑母、舅母、姨母…」となる。もう少し遠い意味を含めた場合には、「堂伯父、堂叔、表舅、表姨夫」といった呼称語も「オジサン」にあたることになるだろう。上に挙げた日本語の「イトコ」に戸惑いを持つと同様で、「おじいさん」「おばあさん」「おじさん」「おばさん」という呼称語は中国人には十分に言葉になっていないように感じられる。「宗親」(父方)なのか、「外親」(母方)なのかということについて、普通

の中国人は根掘り葉掘りこだわらないと認識が落ち着かない。日本人はこういうことをあまり意識しないようで、中国人のように厳密な区別をしない。中国語の場合、親戚を紹介する時に父方のか、母方のかをはっきりさせる意味がほんどの呼称語にある。この点は、中日両国語の呼称における大きな違いであると言える。

「宗親」と「外親」は、自分と血縁関係を持っているので合わせて「血親」とも言う。なぜ中国人はそんなにうるさいほど「宗親」（父方）と「外親」（母方）を区別するかというと、中国には、歴史上長く、代々の家系を継ぐべき男の存在がかなり重く見られてきたことがある。父親は、一家の長であり、「凡諸卑幼，事無大小，毋得專行，必咨稟于家長」（朱熹、『朱子家禮』）（凡そ諸々の卑幼なるものは、事の大小となく専行するを得ず、必ず家長に咨稟すべし）という意識がかなり強い。父方につながる血縁が一族と見なされている。女の子は、いずれ嫁に行き、よその家のために子孫を育てるので一族の一員としては軽く扱われてきた。ここから「男尊女卑」の習慣が根強く行われることになったのだが、中国では、こういう宗族意識が大変強いのである。特に、農村の老人の目には、「内孫」と「外孫」では、現代でも、重みが違うことになる。数千年に亘って、父系の大家族制を維持してきた中国では呼称語が一族と家庭におけるそれぞれの立場を基準にして細かく区別されており、身分・立場の違いを表わす呼称の使い分けが発達した。家庭を中心にして一族を「宗親」（父方）と「外親」（母方）に分け、これを土台として親戚の親疎関係や長幼の順序「輩分」がはっきり規定される。「父系社会」の数千年の伝統が、どの一族でも家庭でも「外親」より「宗親」の方を大事にさせることになった。

伝統的な中国社会においては、一族と家庭が一番基本的な単位として重い意味を持っていた。人の身分、地位、価値、権利、義務、責任などは家庭、一族と密接につながる。家庭構成員の一人が失敗したら家族の失敗でもあり、一人が栄光に輝けば、それは家族の名誉でもあると見なされた。昔、もし家族の一人が科挙の試験に合格して高官になれば、中国では「家門有幸」（一族の幸福である）、「光宗耀祖」（祖先の名を上げる）と言われたものである。逆にもし一人が罪を犯したら、その刑罰は一族に及んだ。『尚書・泰誓上』に「罪人以族」（人を罪するに族を以てす）とあり、孔安国の『伝』に「一人有罪，刑及父母，兄弟，妻子」（一人に罪あれば，刑は親，兄弟，妻子にも及ぶ）という言葉がある。『隋書・刑法志』には「罪及九族」（罪は九族に及ぶ）^(注1)とあるが、歴史上、明の成祖は、方孝儒を処刑した時「十族」まで殺したという説もある。「九族」に加えて、方孝儒の家に来た弟子まで殺されたというのだ。このような考えは古代だけではなく、中国ではプロレタリア文化大革命の初期に世の表に現れて、かなり広く流行することになった「龍生龍，鳳生鳳，老鼠生児会打洞。」（龍は龍を生み，鳳凰は鳳凰を生む。鼠が子を生んでも壁に穴をあけることしかできない。）といういわゆる「血統論」も「罪及九族」の現代版だと見られる。「宗

中日の親族呼称について

親」の血縁を重視する思想は中国人の頭の中に今なお深く根を張っている。

そして、人が一族や家庭でどのような位置におり、どのような存在であるかが非常に重要である。これは栄辱にも、生命にも関わるものだから、はっきりと厳密にしなければならないわけである。それで、中国人の一族の構成員においては、縦にも横にも関係がはっきり区別されており、それぞれの立場・身分に対応した呼称語がある。その弁別を明らかにするために古くは漢代の辞書『爾雅』が「釋親篇」において、親族関係を詳しく説いているし、現在では、『親族呼称辞典』^(注2)や『漢語称谓詞典』^(注3)などの呼称辞典が出版され、『親族呼称辞典』には親族に関する呼称語が3500語も収録されている。『漢語称谓詞典』には古代と現代の呼称語が1875語収録されているが、そのうち、親族関係を示す呼称語が977語にも及んでいる。本稿では、現代中国語でよく使われる親族関係の呼称語を中心に62語を取り上げた。それを日本語と対照しながら表にまとめてみると以下ようになる。(表①～④)

中国語と日本語の親族呼称語の対照一覧表：

表① 「宗親」(父方)直系の呼称

中国語		日本語	
書面語呼称	呼びかけ	書面語呼称	呼びかけ
曾祖父	太爺爺	曾祖父	ひいおじいさん
曾祖母	太奶奶	曾祖母	ひいおばあさん
祖父	爺爺	祖父	おじいさん
祖母	奶奶	祖母	おばあさん
父親	爸爸(爹)	父	おとうさん、とうちゃん、とっつあん、おとうさま、ちちうえ、パパ
母親	媽媽(娘)	母	おかあさん、かあさん かあちゃん、おふくろ、ママ
兄	哥哥	兄	(お)にいさん、あにき、あんちゃん
弟	(名前)弟弟	弟	(名前)
姐	姐姐	姉	(お)ねえさん、ねえちゃん
妹	(名前)妹妹	妹	(名前)
兒子	(名前)	息子	(名前)
女兒	(名前)	娘	(名前)
孫子	(名前)	内孫	(名前)
孫女	(名前)	内孫(娘)	(名前)
曾孫	(名前)	曾孫	(名前)
曾孫女	(名前)	曾孫娘	(名前)

表② 「宗親」(父方) 傍系の呼称

本人との関係	中国語		日本語	
	書面語呼称	呼びかけ	書面語呼称	呼びかけ
父の兄	伯父	大伯, 大爺	伯父 (おじ)	おじさん, おじさま, 名前+おじ (さん)
父の弟	叔父	叔叔	叔父 (おじ)	おじさん, おじさま, じじい, 名前+おじさん
父の姉妹	姑母	姑姑 (姑媽)	伯母, 叔母 (おば)	おばさん, おばちゃん, 名前+おばさん
(父の兄弟姉妹の息子で自分より年上)	堂兄	哥哥 (大哥)	従兄 (いとこ)	(名前+兄さん) (名前+さん)
(父の兄弟姉妹の息子で自分より年下)	堂弟	小弟 (名前)	従弟 (いとこ)	(名前) (名前+君) (名前+ちゃん)
(父の兄弟姉妹の娘で自分より年上)	堂姐	姐姐 (大姐)	従姉 (いとこ)	(名前+姉さん) (名前+さん)
(父の兄弟姉妹の娘で自分より年下)	堂妹	小妹 (名前)	従妹 (いとこ)	(名前) (名前+ちゃん)
兄弟の息子	侄子	侄兒 (名前)	甥 (おい)	(名前) (名前+君, ちゃん)
兄弟の娘	侄女	侄女兒 (名前)	姪 (めい)	(名前) (名前+ちゃん)
兄弟の孫	侄孫	侄孫子 (名前)		(名前) (名前+ちゃん)
兄弟の孫娘	侄孫女	侄孫女兒 (名前)		(名前) (名前+ちゃん)

表③ 「外親」(母方) の呼称

本人との関係	中国語		日本語	
	書面語呼称	呼びかけ	書面語呼称	呼びかけ
母の父	外祖父	老爺, 外公	祖父	おじいさん
母の母	外祖母	姥姥, 外婆	祖母	おばあさん
母の兄弟	舅父	舅舅	伯父, 叔父 (おじ)	おじさん, 名前+おじ (さん)
母の姉妹	姨母	姨, 姨媽	伯母, 叔母 (おば)	おばさん, 名前+おば (さん)
母の兄弟姉妹の息子で自分より年上	表兄	表哥 (哥哥)	従兄 (いとこ)	(名前+兄さん) (名前+さん)
母の兄弟姉妹の娘で自分より年上	表姐	表姐 (姐姐)	従姉 (いとこ)	(名前+姉さん) (名前+さん)
母の兄弟姉妹の息子で自分より年下	表弟	(名前)	従弟 (いとこ)	(名前) (名前+君, ちゃん)
母の兄弟姉妹の娘で自分より年下	表妹	(名前)	従妹 (いとこ)	(名前) (名前+ちゃん)
自分の姉妹と妻の姉妹の息子	外甥	(名前)	甥 (おい)	(名前) (名前+君, ちゃん)
自分の姉妹と妻の姉妹の娘	外甥女	(名前)	姪 (めい)	(名前) (名前+ちゃん)
娘の男の子	外孫	(名前)	孫 (まご)	(名前)
娘の女の子	外孫女	(名前)	孫 (まご)	(名前)

中日の親族呼称について

表④ 姻親（話者との血縁のある者の配偶者関係）の呼称

本人との関係	中国語		日本語	
	書面語呼称	呼びかけ	書面語呼称	呼びかけ
父の兄の妻	伯母	大媽, 大娘	伯母（おば）	おばさん, おばちゃん おばさま
父の弟の妻	孀母	孀子（孀）	叔母（おば）	おばさん, おばちゃん おばさま
父の姉妹の夫	姑父	姑父	伯父, 叔父 （おじ）	おじさん, おじちゃん おじさま
母の兄弟の妻	舅母	舅媽	伯母, 叔母 （おば）	おばさん, おばちゃん おばさま
母の姉妹の夫	姨父	姨父	伯父, 叔父, （おじ）	おじさん, おじちゃん おじさま
兄の妻	嫂子	嫂子	兄嫁（義姉）	お姉さん
弟の妻	弟媳	（名前）弟妹	（義妹）	名前＋さん
姉の夫	姐夫	姐夫	姉婿, （義兄）	お兄さん
妹の夫	妹夫	名前	妹婿, 義弟	名前＋さん, 名前＋君

ご覧の通り、中国語の親族関係の呼び方は、日本語と比べると種類が多く、複雑である。日本語では兄弟（姉妹）の子供は、「甥」と「姪」の二つであるが、中国語では、兄と弟の子供は、男の子は「侄子」、女の子は「侄女」であり、姉と妹の子供は、男の子は「外甥」、女の子は「外甥女」とであるというように同じ宗族（同姓となる）か、そうでないか（伝統的には異姓）がはっきり区別されている。この他に、親族関係における遠い親戚の呼称の前に「堂」或いは「表」を付けて親族関係を表わす。「堂叔」とか「表舅」とか言うものである。この場合も「堂」は同じ宗族であり、「表」は宗族以外であることを示す。中国人は自分より目上の人には、自分との関係を示す呼称で呼ぶが、自分より目下の人には姓抜きにして、名前を呼ぶか、或は「小名」（幼名）（家庭内の愛称）で呼ぶのが普通である。「小名」というのは中国人の家庭における独特の呼称で、家庭によっては、子供に「小名」をつける習慣がある。「小名」は大体縁起のよい言葉を選び、力の強い動物名や子供の特徴などでつけることが多い。男の子に「虎子」「牛牛」「小胖」「鉄柱」…、女の子に「妞妞」「小妹」「貝貝」…などがよく見られるものである。こういう呼び方は家庭内の目上の人が目下の人に対する場合や兄弟、いとこ同士の間でのことに限られている。子供が大人になったら、自然に「小名」では呼ばれなくなる。こういう現象は日本人の家庭にはないだろう。中国人と日本人は共に一族・家庭内で名前を呼ぶ時、殆ど姓抜きである。中国人の家庭では姓をつけて名前を呼ぶことがあるが、それは相手に不満があるか、口喧嘩をする時だけにかぎられる。

2. 中国語の呼称に現れる「輩分」の重み

「輩分」という中国語は家族・親戚・友人間の親族関係の序列や長幼の順序による目上・目下の位置付けを示す言葉である。中国人同士の会話に時々次のような言い方が出てくる。「我比他小一辈」（私は彼より一世代若い）、「論輩分，他是我的叔父」（世代から言うと、彼は私のおじに当たる）。このように中国社会では「輩分」が厳格に認識されながら、人間関係が行われていく。そして、伝統社会の構成単位としての一族・家庭の人数は、少なくても十数人、多い場合には何十人であり、もっと多くなれば何百人というものもある。中国の福建省、広東省などの「×家祠（堂）」（一族の先祖を祭ってある廟）には、何百年と続く家系図が収められている。歴史の古い村の一大家族が代々そこで生活していくうちに人数が次第に多くなり、一つの村の何十所帯、何百所帯の人の苗字が同じであるということも特に珍しいことではない。村に他の苗字の者が何人かいるかもしれないが、そういう人たちも大家族と何らかの婚姻関係によって親戚になり、村の大きい血縁関係の網目に入っている。その中で「宗親」（父方）と「外親」（母方）、「姻親」^{（注4）}及び「遠親」（遠縁の親戚）の弁別が呼称語の使い分けで規定されているのはもちろんのことであり、更にそれに加えて長幼・上下の順序がはっきり分けられている。一族が大きくなるにつれ、親戚の数が多くなり、長幼と上下の順序が一致しないこともおこる。二十歳過ぎた大人が五・六才の子どもを「叔父」と呼ぶこともありうるが、その五・六才の子どもがその大人を呼ぶ場合は、呼称語ではなく、その大人の名前を呼ぶことになる。もし「輩分」による目上・目下の関係がなければ、子供或は年下の人が大人或は自分より年上の人の名前を直接呼ぶことはかなり失礼なことになり、そのようなことをすれば、必ず周りの人から注意されるだろう。このような呼び方において礼か非礼かを規定するのは中国人が「按輩分叫人」（長幼の順序によって、人を呼称する）という慣習である。しかし、特別な人物に対して例外の場合もある。例えば、鄧小平が健在の時に小中学生は鄧小平を「鄧爺爺」と呼び、普通の社会人の大人は若い人でも「鄧小平」と直接に名前を呼ぶことも珍しくなかった。もし長幼の順序によれば、鄧小平は普通の中国人の「祖父」「伯父」にあたるが、中国人はやはり彼の名前を呼び捨てにして呼ぶ。「小平您好！」（お元気でいらっしゃいますか）という北京大学の学生が天安門の前に出した横断幕が北京の人の心に印象を残したことがある。ここで単に「小平」と言っているが、この言葉には公的存在としての性格が特別に強く、みんなの大切な共有のものである鄧小平に対する親しみが感じられ、別におかしく思われることはない。

中国ではもし自分の兄（姉）が自分より年下の人と結婚した場合、やはりその人を「嫂子」（お姉さん）、「姐夫」（お兄さん）と呼ぶべきである。このケースについては、日本人

と中国人の習慣は、同じである。

前にも触れたが、『爾雅・釋親』(p, 2121)に中国の封建社会における一族の親族関係の呼称が詳しく記録されている。曾孫以下、更に玄孫、来孫、晟孫、仍孫、雲孫などが挙げられている。日本の『古事類苑』「親戚上」(p, 116～119)にもまったく同じ内容がある。中国では何千年も前の封建時代から「輩分」をよくわきまえる必要があり、決して間違えてはならないことである。例えば、「我是你爺爺」(おれはおまえのお祖父さんだ)、「你是我孫子」(おまえはおれの孫だ)というような表現に中国人は、非常に敏感である。もちろん、実際に祖父と孫の関係だったら、全然問題はないが、そうでない相手にこのようなことを言えば、罵り言葉であり、聞き手にとって大変大きな侮辱となる。この場合、「輩分」の差が大きければ大きい程、罵りの程度がひどいことになり、喧嘩の元にもなる。このようなことは、日本では恐らく考えられないことだろうが、中国での呼称語の選択は常に相手との関係を計りながら、決定する必要がある。

日本語の親族呼称語は、中国語との比較で言えば、単純で一族の祖父母は父方にしろ、母方にしろ、「おじいさん」「おばあさん」と呼び、親の兄弟姉妹も父方、母方にかかわりなく、「おじさん」「おばさん」と呼ぶ。親族以外の一般の人に対しても、親しい相手にはこの呼び方が、世代に応じて準用され、自分と同世代の人で自分より年上だったら、「お兄さん」「お姉さん」或いは(名前+さん)、自分より年下の人ならその名前を呼ぶか、親しく「×ちゃん」「×君」と呼べばいい。しかし、もし中国語で一族の間柄にあるものが相手と呼ぶ場合、少なくとも「宗親」か「外親」かを区別して言わなければいけない。また、古代から同世代の人の間にも長幼によって上下の区別がある。年下の方は、年上の方の名前を直接呼ぶのは失礼なことになる。しかし、前に述べたようにもし「輩分」が上の人だったら、相手が自分よりいくら年上でもその人の名前を直接呼ぶことができる。親族以外の年上や目上の方を呼ぶ場合、日本人は親しい年上、目上の方を呼ぶ時に「太郎オジサン、次郎ニイサン」「花子オバサン、明子ネエサン」と呼ぶこともある。似たような呼び方として中国語では、姓抜きに「名前+呼称語」で「万林叔叔」「麗華阿姨」と呼ぶこともできる。この点については、日本と中国とほぼ同じである。ところが、親の兄弟(姉妹)を呼ぶ場合となると、日本語では「名前+さん」と呼ぶこともあるが、中国語では、そうはいかない。親族関係の「輩分」が上の方の名前を呼ぶのは失礼なことであると見なされ、許されない。その代わりに、親の兄弟(姉妹)が多い場合、中国語では、その呼称語の前に年の順に「大」「二」「小」などをつけて、「大爺」、「二大爺」、「大伯」、「老叔」、「大姑」、「大姨」、「老舅」と「二奶奶」、「二伯」、「二叔」、「二姨」…などと呼ぶことになる。自分の親以外の親族呼称の前に「大」、「小」、「老」、「姓」、「名前」、序数を表わす(一を除く)二、三、……を付けることはごく普通にあるが、「名前」以外は、日本語では用いられない言い方

である。「大おじ」はあるが、これは弁別の意味が違って、祖父母の兄弟を言うことになる。）

ところで、日本語の「イトコ」という呼称語は、中国人から見ると漠然とした感じがする。その意味の範囲が実に広い。中国人の習慣では、自分の「イトコ」を人に紹介する際、必ず「這是我的堂哥（堂姐，堂弟，堂妹）或いは表哥（表姐，表弟，表妹）と親族関係と長幼の立場まで具体的に紹介する。中国語の「堂×」は、父方の男兄弟の子供である、苗字が自分と同じ人に用いる。「表×」は、父方の姉妹の子供であるか「姑表という」、母親方の兄弟（姉妹）の子供であるか「舅表，姨表」，或いは全く親戚関係のないことを示す。この場合、苗字が普通自分と異なるのが一般的であるが、同姓でも親族関係でなければ「表×」となる。日本人は、こういう関係をあまり重視しないようであり、「イトコ」という呼称語では、このような親戚関係の区別を表現しない。

「イトコ」のことを中国人に話すことがあったら、説明する際、できるだけ「堂」（父方の男兄弟の子供）か「表」（父方の女姉妹の子供），（母方の兄弟・姉妹の子供か）をはっきり説明した方がいい。そうすれば、相手は落ち着いた気持ちで話を聞くことが出来るだろう。

3. 尊称と謙称

中国人は、相手や話者自身の家族のことについて話す際、よく「尊称」「謙称」を用いる。

相手あるいはその家族に対する尊敬の気持ちを表わすために「尊称」として「令」を用い「令×」という。例えば、「令尊」（ご尊父）、「令堂」（ご母堂）「令正」（奥様）、「令郎」（ご令息）、「令愛」（お嬢様）などである。

一方、中国人は、「礼者，自卑而尊人」（礼という者は、自らを下し、人を尊ぶものである）という考えを持っており、目上の人との話しの中で自分の家族に言及する場合には、「謙称」とするために「家」（jia）を用いて「家×」と言う。例えば、「這位是家父」（「家母」，「家叔」，「家兄」）（こちらは父です）（母，叔父，兄）と紹介する。自分より年下、或いは目下の家族・親族を言う場合の「舍弟」（弟）、「舍侄」（甥）などという表現もある。このような表現は、古風な言葉使いという感じもあるが、現在でも、中国の古いタイプの文学作品やインテリ同士の書簡などにまだ見られる。現代日本語の中にはこのような「謙称」としての専門語はない。家族以外の人に対して言う場合、尊敬語の「お×」，「ご×」，「×さん」（お父さん，お母さん，ご両親）を用いないで、「父，母，両親」ということによって、謙称の表現が行われる。その謙称の程度は、中国語ほどではないと言えるのではないだろうか。

中日の親族呼称について

しかし、現在は中国語で「這位是我祖父（爺爺），祖母（奶奶），父親（爸爸），母親（媽媽），哥哥，姐姐」というのが、普通で、日本語の場合とあまり差のない言い方をするようになってきている。

表⑤ 中国でよく使われている家族を指す言葉の尊称と謙称

相手あるいは自分との関係	相手の家族の場合（尊称）	自分の家族の場合（謙称）
曾祖父	令曾祖	家曾祖
曾祖母	令曾母	家曾母
祖父	令祖	家祖
祖母	令祖母	家祖母
父親	令尊・尊父・令尊大人	家父・家嚴・家尊
母親	令堂・尊母	家母・家慈
兄	令兄	家兄
弟	令弟	舍弟
姐	令姐	家姐
妹	令妹	舍妹
夫人	令正，尊夫人	家内
兒子	令郎	小兒・小犬
女兒	令愛	小女・犬女
孫子	（名前）	小内孫
孫女	（名前）	小内孫女
曾孫	（名前）	小曾孫
曾孫女	（名前）	小曾孫女

4. 夫婦関係の呼称

以前の中国では、自分の配偶者のことを人に言う場合「這是我先生」（こちらは私の主人です），「這是我丈夫」（こちらは私の夫です）…，或いは「這是我内人」「這是我妻子」「這是我老婆」（こちらは私の家内です。）……など三十ぐらいの呼び方が使われていたが，新中国になってから，「丈夫」と「妻子」「老婆」のほかに夫婦で共用できる「愛人」という呼称が用いられるようになった。最近では，また「先生」「老公」「太太」という呼称が復活している。

中国では，「五四新文化運動」^(註5) の時から「愛人」(àiren)^(註6) という言葉が呼称語として知識分子の間で使われ始めた。最初は，恋人のことを指していたが，その恋人と結婚し

でも、やはり「愛人」を使い続け、しだいに、配偶者のことを指す言葉になったという。中国人の理解としては互いに愛し合い、結婚している夫婦という意味となる。日本語の「愛人」の意味は中国語では「情人」という。新中国になってから、都市部で「愛人」が広く使われるようになった。これは年齢も性別も問わず、夫にも妻にも使われるが、しかし、銀婚とか金婚の時期を迎えた配偶者はこれを使うと、どうもあまり合わないような感じがする。むしろ「老伴」などの方がぴったりするかも知れないと思う。

「太太」という古くからの呼称語が一時期は中国の言葉から消えてしまうほどであった。何故かというと、「老爺」と同じで、封建社会の搾取階級のことが連想され、人民の敵という語感を帯びたからである。「老爺」が（地方の）地主や官僚として庶民を威圧する存在を恐れて、呼ぶ言葉であったのに対し、「太太」は昔、上層社会の既婚の女性に対する尊称であり、使用人が女主人に対して用いた呼称でもあった。日本語の「奥さま」「奥方」に当たる。そして、新中国の誕生から文化大革命が終了するまでは「太太」は毎日自分で労働せずに、人を使うばかりの“資産階級太太”（ブルジョアの奥さま），“官太太”（お役人の奥さま）という意味で批判のための言葉として用いられていたのも、普段の生活に使うことは、多くの人が避けていた。そのため、誰もがそうした呼び方をするということにも抵抗があったのである。例えば、友人の馬さんの奥さんを「馬太太」と呼んだら、馬さんの奥さんは、「そんな呼び方をしないでよ」と、すぐ抗議する。抵抗を感じるもう一つの理由として、「太太」の前に夫の苗字を入れるので、あまり女性の人格を尊重していないような意味がともなったこともある。時には、人を風刺する時に、「太太」が用いられ、「她真像個小姐太太似的，又怕脏又怕累。」（彼女は、まるでお嬢様か奥様のようで、汚いだの疲れるだのと、いやがるのだ）というような表現がある。こうして新中国の人々は改革開放の前までは「太太」という言葉に対してあまり良い感じを持たなかった。ところが、1978年から改革開放政策が取られるようになってから、以前は、夫婦関係を言う場合、自分の夫（妻）を人に紹介する時に「他（她）是我愛人」と言うのが普通であったのに変化が生じて、最近では、この40数年間使い慣れてきた呼称語である「愛人」を言う人がだんだん少なくなる傾向が現れている。その代わりに、以前の中国で使われていた「先生」「太太」が息を吹き返すようになってきた。香港などで使われている「老公」「太太」を使う若者も多くなっており、中央テレビのコマーシャルにも使われている。もちろん、新旧の中国を貫いて生きつづけた「丈夫」「妻子」（qizi）がやはりよく使われているのであるが、最近、海外の技術や資金と共に香港、台湾から「太太」という呼称語もあらためて持ち込まれて、現在では、北京で耳にすることも珍しくなくない。

『現代漢語詞典』^(註7)では、「太太」は「①旧時通称官吏的妻子。②旧時僕人等稱女主人。③對已婚婦女的尊稱④称某人的妻子或丈夫對人稱自己的妻子（多帶人稱代詞做定語）」とあ

る。「四つ目の語彙として、人の妻を称する、或いは夫が他人に対して自分の妻をいい、多くは人称代名詞を冠して用いる。」と説明しているが、この解釈で相手の妻を指すというのは適切だと言えようが、自分の妻のことを言うというところには疑問がある。もし、他人に自分の妻を「太太」と言っておかしくないのなら、彼は普通の中国人ではなく、権勢のある金持ちであるに違いない。例えば、「您（的）太太身體好嗎？」（奥様は御元気ですか）という質問に答えて、「我太太身體好，謝謝！」（私の奥さんは元気です。ありがとう。）というのを聞けば、普通の中国人はどうも、おかしいと感じるのではないか。「我愛人（妻子）身體還好。謝謝！」と答えれば、自然だと思う。こうした語感には業界などによって、差異があるようで、「太太」という呼称語は、商売をやっている人の間ではわりあいよく受け入れられているが、公務員や文化人の間では、まだ抵抗がある。中国では労働者と農民は「太太」という呼称語は用いない。

「夫人」は、既婚の女性に対する敬意を含んだ言い方である。その敬意は当の「夫人」自身に向けられることもあるが、多くは外交の場合あるいは地位の高い人の妻を言うのに用いる。古代では「天子之妃曰后，諸侯曰夫人。」（『礼記・曲礼』）（天子の妃を后といい、諸侯は夫人という）という意味であった。唐の時代には、一品の文武官の妻に夫人が用いられ、明・清の時代になって、一品に加えて、二品官の妻も夫人と呼ばれるようになった。このように歴史的に「夫人」の地位は高いものなので、近代においても地位の高い人の妻を言う時、「夫人」という呼称が慣用されるようになったのである。「孫文夫人」「主席夫人」などである。今、一般の人の妻に対する尊称になっているとも言われるが、実状としては外国人に対して用いることが多い。それにしても、現在自分の妻のことを「夫人」という中国人も少なくない。こういう人たちは恐らく「夫人」が本来、身分ある他人の妻を指す尊称であったことを知らないため、こういう誤用をするのだと思われる。

「老伴」は『中日辞典』（小学館）には「老人夫婦の一方、特に女性のほうをさすことが多い。」と説明があるが、中国では、実際には女性にとどまらず、男性をさすことも結構多い。若い時「愛人」という呼称語を用いた夫婦が長く連れ添い、年を取ると、「老伴」という呼称をよく用いる。この「老」と「伴」には一緒に暮らしてきた相手に対する愛情が含まれていると言えよう。夫婦の呼び方は人によって、それぞれ個人差があり、十人十色になると思う。普通よく使われている呼称を下の表のようにまとめた。

表⑥ 夫婦関係における呼称と配偶者の両親についての呼称

中 国 語			日 本 語		
書面語呼称	呼びかけ	他者に対して	書面語呼称	呼びかけ	他者に対して
丈夫	①（名前） ②（子供がいれば） 孩子他爸（爹） ③当家的	①丈夫 ②愛人 ③先生 ④老公 ⑤老頭 ⑥老伴 ⑦當家的	夫	①あなた ②（名前） ③（名前）＋さん ③（子供がいれば） お父さん パパ	①主人 ②夫 ③うちの ④亭主
妻子	①（名前） ②（子供がいれば） 孩子他媽（娘） ③老婆	①妻子 ②愛人 ③老婆 ④媳婦 ⑤女人 ⑥老伴 ⑦家裏的 ⑧内人 ⑨太太？ ⑩夫人？	妻	①（名前） ②（子供がいれば） 母さん ③ママ ④おい	①家内 ②妻 ③女房 ④かみさん ⑤細君
公公 （夫の父）	①爸爸 ②爹	公公	舅	①お父さん ②おとうさま ③ちちうえ ④（子供がいれば） おじいちゃん	①舅 ②主人の父
婆婆 （夫の母）	①媽媽 ②娘	婆婆	姑	①お母さん ②（子供がいれば） おばあちゃん	①姑 ②主人の母
岳父 （妻の父）	①爸爸 ②爹	岳父・老丈人	舅	①お父さん ②おとうさま ③ちちうえ ④（パパ）	①舅 ②家内の父 ③妻の名前＋父 ④在所の父 ⑤里の父
岳母 （妻の母）	①媽媽 ②娘	岳母・丈母娘	姑	①お母さん ②かあさん ③ははうえ ④（ママ） ⑤（子供がいれば） おばあちゃん	①姑 ②家内の母 ③妻の名前＋母 ④在所の母 ⑤里の母

現在の中国語は、書面で自分の配偶者を言う場合、夫のことは「丈夫」、妻について「妻子」を用い、話し言葉では、それぞれ「愛人」、「老婆」を用いるのが普通である。他人の妻のことは、よく「夫人」という。こういう呼称語の前には、人称代名詞を限定語として置くことが必要である。「我丈夫」、「我妻子」、「我愛人」、「我家先生」「他夫人」などということになる。ところで、日本語の場合は、話す場面とか、相手によって、同じ夫婦でも

違った言い方をすることが多いようだが、これに似たことは中国語でもある。プライベートな関係の世界では「老伴」「愛人」と言っているだが、あらたまった場であまり親しくない人に「丈夫」「先生」あるいは「妻子」を用いて、自分の配偶者を呼ぶ。これが「書き言葉」での呼び方に相当するわけである。

鈴木孝夫氏は「言葉と文化」において、「現在の日本では、夫婦がお互いをパパ、ママあるいはお父さん、お母さんのように呼び合うことが圧倒的に多い。新婚当時はお互いを名前で呼んだという夫婦もかなりある。特に夫だけが妻を名前で呼び、妻は夫を「あなた」のような代名詞で呼ぶケースは極めて普通である。ところが、このような夫婦に子供が生まれると、直ちに相互の呼称が、殆どパパ、ママ、父さん、母さんになってしまう。」^(注8)と述べておられる。筆者は中国と日本でそれぞれ60人を対象に調査を行った。その結果、両国とも夫婦が家で互いに名前を呼びあう家庭がやはり一番多かった。ただ、日本人の家庭では、妻が夫に第二人称代名詞「あなた」をそのまま用い、夫婦間の親しみや愛情が表れているような感じがするが、子供がいれば、子供を介して「お父さん」と「お母さん」と呼ぶのが代表的スタイルのようである。鈴木氏の言われると通りで、このような呼び方が、日本では圧倒的に多い。しかし、中国では、子供のいる夫婦がお互いに相手を、子供の立場からの呼称語を直接使って、「爸爸」(お父さん)、「媽媽」(お母さん)と呼ぶ現象は大変少なく、60人のうち2人しかいなかった。これに近い中国語の呼称語として「孩子他爸」(子供の父さん)、「孩子他媽」(子供の母さん)があり、きわめて普通に使われる。子供を介して相手を呼ぶという姿勢は両国語に共通しているが、中国語の場合、その間接性が言葉の表に現れることが多いことになる。子供に向かって、その子の祖父や母のことを話す時には「你爺爺」(あなたのおじいさん)、「你媽媽」(あなたの母さん)という。前にも述べたが中国人は、「輩分」についての意識が強く、「爸爸」というにしても、誰の父か、人称代名詞ではっきりと限定することが重要なのである。中国の労働者や農民はその多くが自分の配偶者をいうときに、「我家那口子」「我媳婦」「我那位」「孩子他爸」「孩子他媽」ということが多い。「屋裏的 wūlǐ de」(家の中にいる者)、「做飯的 zuòfàn de」(飯炊きをする者)という呼称が勤労者の家庭で、特に経済的に恵まれない年配の人の間で使われていたが、今日の男女平等が提唱されている中国社会ではこうした呼び方は妻を蔑視する差別用語だと見られている。日本人の家庭で普段使われている「おい」「ねえ」「ちょっと」或いは「おまえ」「あなた」「きみ」というような呼び方は、中国ではまともな呼称語としての地位をうることはできず、夫婦喧嘩の時以外には使わない。

配偶者のことを言う表現は日本語より中国語の方が語彙としては多いようだ。「丈夫、愛人、先生、老公、老頭、老伴、當家的」にしても、「妻子、愛人、老婆、媳婦、老伴、家裏的、内人、太太、夫人」にしてもみな夫婦関係を表わす呼称語である。しかし、一人の人が

そのすべてを日常的に使うのではなく、個人の使用範囲は話し手それぞれの社会的背景、地位、家庭の状況などから切り離すことはできない。個人の使用語彙の中から話し合う相手の身分、話題の内容によって、呼称語を選択して使用することになる概して言えば、勤労者の間では「我家那口子」「我媳婦」「我那位」「孩子他爸」「孩子他媽」「屋裏的」、**「做饭的」**が用いられ、インテリの場合は「丈夫、妻子、愛人、内人」などを用いられている。中国語を習った日本人は中国人と話し合う際、中年以下の人は「丈夫、愛人」を、中年以上の人は「妻子、老伴」を用いるのが普通だと心得ておけばよいと思う。「我媳婦」という第一人称につけた形で、若い人や中年の勤労者は使用することが多い。「老」のついた「老公、老頭、老婆」という表現は多少ふざけた感じがするから、初対面の人に使わないほうがよいと思う。

5. 終わりに

上に挙げた呼称語を数えてみるとは現代中国語の62語に対して現代日本語は、24語である。呼称の仕方について中国人から見れば、日本語や英語の呼称語は人間関係の区別の仕方がかなり荒いように感じられるのである。しかし、一概に言えない面もあって、日本語の舅と姑に関する呼び方は中国語より多い。

中国語の数多い呼称語の背景には中国特有の宗族・家族制度の長い歴史がある。その中で血縁・親族関係と序列を重視することによって、社会の安定と秩序を保とうとする考えが儒教の根幹をなす思想の一部となったこともあって、身分、目上、目下の関係を細かに反映する呼称語が非常に発達し、重んじられてきた。たいへん複雑だとも見られるが、日常生活の中で、このことに無知であったり、間違えたりすれば、人間としての資質が問われる。呼称は、民族性や時代性が強く、社会の変化に伴って言葉の使い方も変わってゆくものである。呼称語は文化的背景、地域、個人の差によって様々な言い方があるが、筆者は中日両国語によく使われる呼称語を対照しながら、そこに現れる社会や人間関係、言語習慣の特質を分析してみた。外国語の呼称を的確に理解し使うには呼称語の種類の多少、対応関係を見るだけでは不十分である。例えば、中国語の上手に話せる日本人でも、大人の中国人と話をしている、相手の親のことに言及する際、「爸爸身體好嗎？」（お父さんは御元気ですか）「媽媽到姐姐家去了」（母は姉の家へ行きました）というようなことを言うことがよくある。このような呼称の仕方は中国人には子供っぽく聞こえる。大人同士の会話であれば、必ず人称代名詞を冠して、「你爸爸（您父親）身體好嗎？」とか、「我媽媽去（我）姐姐家了」と言う。これは、日本語で人の名や人称をできれば言葉にしないで話をするのが美德であると言う傾向と対照をなしている。例えば、日本語では目上の人には人称代名詞

中日の親族呼称について

で呼びかけたりすることができないが、中国語の場合は要求される。例えば、子供が父親に向かって「あなたも行きますか」というのは、日本語としてはできないが、中国語で「您也去嗎？」とは言える。もちろん、「爸爸（您）也去嗎？」とも言える。呼称語は社会の文化的、政治的背景、伝統・習慣と密接な関わりを持っているものであり、呼称習慣の変化の中に、逆に社会の変動に伴う人々の考え方の移り変わりが伺えることもよくある。

中国では一人っ子政策を実施しているから今の子供たちは兄も姉も弟も妹もいないので親族関係が次第に簡単になりつつある。宗族制度の社会的意味や形にも変容が起きていくだろうと思われる。親族関係の区別にもとづいて詳細に発達した呼称語を用いてきた中国語の呼称の仕方にもこれから何らかの変化が起こるかも知れない。

註：小稿は愛知大学の中島敏夫先生と山田克利先生に教示を仰いだところがある。

- (註1) 「九族」一説では自分を中心に上四代, 下四代である。
別の一説では父親系四世代, 母親系三代, 妻の家族二世代だという。
- (註2) 『親族呼称詞典』 吉林教育出版社 1988 年 8 月
- (註3) 『漢語称谓詞典』 遼寧大学出版社 1988 年 8 月
- (註4) 姻親は結婚によってできた親戚. 縁者. 姻戚関係で自分と血縁のない親戚を指す。
- (註5) 五・四運動. 1919 年 5 月 4 日, 北京の学生たちが列強の中国侵略に抗議したことに端を発した反帝反封建の政治・文化運動。
- (註6) 日本語の「愛人」は中国語で「情人」である。
- (註7) 商務印書館 1996 年の (修訂本)
- (註8) 鈴木孝夫『言葉と文化』岩波書店 1973 年
- (註9) 『漢語詞匯與文化』北京大學出版社 1995 年 8 月
- (註10) 商務印書館 1996 年の (修訂本)

参考書：

- | | |
|------------------|----------------------|
| 1, (愛知大学)『中日大辞典』 | 大修館 1994 年 5 月 (第二版) |
| 2, 『漢語詞匯與文化』 | 北京大學出版社 1995 年 8 月 |
| 3, 『語文知識電視講座』 | 廣播出版社 1982 年 2 月 |
| 4, 『中国風俗概観』 | 北京大学出版社 1994 年 5 月 |
| 5, 『中国人的德行』 | 華齡出版社 1997 年 5 月 |
| 6, 『漢語称谓詞典』 | 遼寧大学出版社 1988 年 8 月 |
| 7, 『語言文化社会新探』 | 上海教育出版社 1989 年 12 月 |

- | | |
|-------------------|-----------------------------|
| 8, 『現代漢語辭典』(修訂本) | 商務印書館 1996 年 |
| 9, 汪縛天『口語藝術』 | 中國文聯出版社 1989 年 10 月 |
| 10, 鈴木孝夫『言葉と文化』 | 岩波書店 1973 年 |
| 11, 『実用交際大全』 | 上海古籍出版社 |
| 12, 李洪濤『社交禮儀卷』 | 中國旅游出版社 1993 年 2 月 |
| 13, 『親族呼称辞典』 | 吉林教育出版社 1988 年 8 月 |
| 14, 『中国称谓辞典』 | 北京語言学院出版社 1994 年 2 月 |
| 15, 『牛屋雜俎』 | 成都出版社 1994 年 10 月第 1 版 10 頁 |
| 16, 田恵剛『中西人際称谓系統』 | 外語教学与研究出版社 1998 年 4 月第 1 版 |